

【気管支喘息とアレルギー性鼻炎との関係】

ISAAC study による気管支喘息と アレルギー性鼻炎の疫学的な調査

出典 アレルギー・免疫(1344-6932)10巻10号 Page1282-1292(2003.09)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004069149>)

著者 久保田典里子 他

調査地域 福岡県福岡市

調査時期 1995年(2002年のISAAC第Ⅲ相試験の漸定値)

調査対象 6～7歳(小学1年生)、13～14歳(中学2年生)

依頼数 6～7歳: 3137人

13～14歳: 3004人

回収数(率) 6～7歳: 2901人(91.4%、男子:1464人、女子:1437人)

13～14歳: 2831人(94.2%、男子:1452人、女子:1379人)

診断方法 ISAAC

有症率 6-7歳 1995年 現症:25.6% 既往:30.8%

2002年 現症:32.8% 既往:37.5%

13-14歳 1995年 現症:41.0% 既往:52.6%

2002年 現症:45.7% 既往:60.8%

調査概要 福岡市の小中学生のアレルギー疾患をISAAC調査した論文。
喘息は高学年で減少していたが重篤な症状は増加し、アレルギー性鼻炎は
高学年で増加しており、どちらも世界平均より高かった。